作成例

中長期保全計画

施設名称:	●●●●庁舎
計画年度:	2015年度
計画期間:	30年

1 「内容」欄に、補修、修繕、改修等の保全の内容を記載し、それに要する費用等を「単価(円)」、「数量」、「金額(円)」欄に記載します。
「周期(年)」欄には、ライフサイクルコストに関する書籍等を参考に、部材の更新や修繕の周期を記載します。
「次回予定年度」欄には、建設年次又は前回の更新や修繕の年次を元に、周期から想定される次回の更新や修繕の予定年度を記載します。

2 「次回予定年度」及び「周期(年)」を元にそれ以降の更新や修繕が想定される年度の欄に、「金額(円)」を記載します。
なお、各年度への金額の記載は「単位を千円)としていますので、「金額(円)」÷1,000の値を記載します。

【単位:千円】

内容	単価(円)	数量	金額(円)	周期(年)	次回予定年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045
＜屋根(屋根防水＋押えコン)＞																																			
更新	5,000,000	1.00	5,000,000	30	2030																5,000														
修繕	2,000,000	1.00	2,000,000	10	2020						2,000										—										2,000				
＜外部(外壁仕上塗材)＞																																			
更新	16,700,000	1.00	16,700,000	15	2015	16,700															16,700														
修繕	5,700,000	1.00	5,700,000	8	2023									5,700															5,700						
…	…	…	…																																
…	…	…	…																																
…	…	…	…																																
…	…	…	…																																
＜空調機(吸収冷凍機)＞																																			
更新	30,000,000	1.00	30,000,000	20	2020						30,000																				30,000				
修繕(冷媒ポンプ等分解整備)	3,600,000	1.00	3,600,000	5	2015	3,600					—					3,600					3,600					3,600					—				
修繕(制御機器等部品交換)	600,000	1.00	600,000	4	2016		600				—				600				600				600				600				—				600
＜ファンコイルユニット＞																																			
更新	160,000	50.00	8,000,000	20	2020						8,000																				8,000				
修繕(軸受交換、コイル洗浄)	60,000	50.00	3,000,000	10	2030						—										3,000										—				
修繕(フィルター交換)	20,000	50.00	1,000,000	5	2015	1,000					—					1,000					1,000					1,000					—				
…	…	…	…																																
…	…	…	…																																
…	…	…	…																																
					計(千円)	21,300	600	0	0	0	40,000	0	0	5,700	600	4,600	0	0	600	0	29,300	0	600	0	0	4,600	600	0	5,700	0	40,000	0	0	0	600
					累計(千円)	21,300	21,900	21,900	21,900	21,900	61,900	61,900	61,900	67,600	68,200	72,800	72,800	72,800	73,400	73,400	102,700	102,700	103,300	103,300	103,300	107,900	108,500	108,500	114,200	114,200	154,200	154,200	154,200	154,200	154,800

保全台帳を備え、修繕履歴等の記録をしっかりと行っておくと、今後の修繕等に必要となる金額を速やかに把握することが可能となります。

3 「計(千円)」欄に、各年度の更新や修繕に必要となる費用の合計を記載します。
また、各年の「計(千円)」の累積額を「累計(千円)」欄に記載します。

4 各年度に必要となる費用を確認します。
施工場所や部位・機器等で、関連する工事が近い時期にある場合には、執務に与える期間の縮減やコストダウンを諮るため、同時に工事を行うなどの検討を行います。(必要に応じて直近数年間の年度保全計画も作成し、検討します。)
工事費が高額になる場合には、複数年に分けて工事を発注するなど、費用の平準化を検討したうえ、予算の確保(予算要求手続き等)を行います。なお、予算の平準化については、複数の建物、複数の施設を管理している場合に、より有効となり、検討の必要性が高まります。